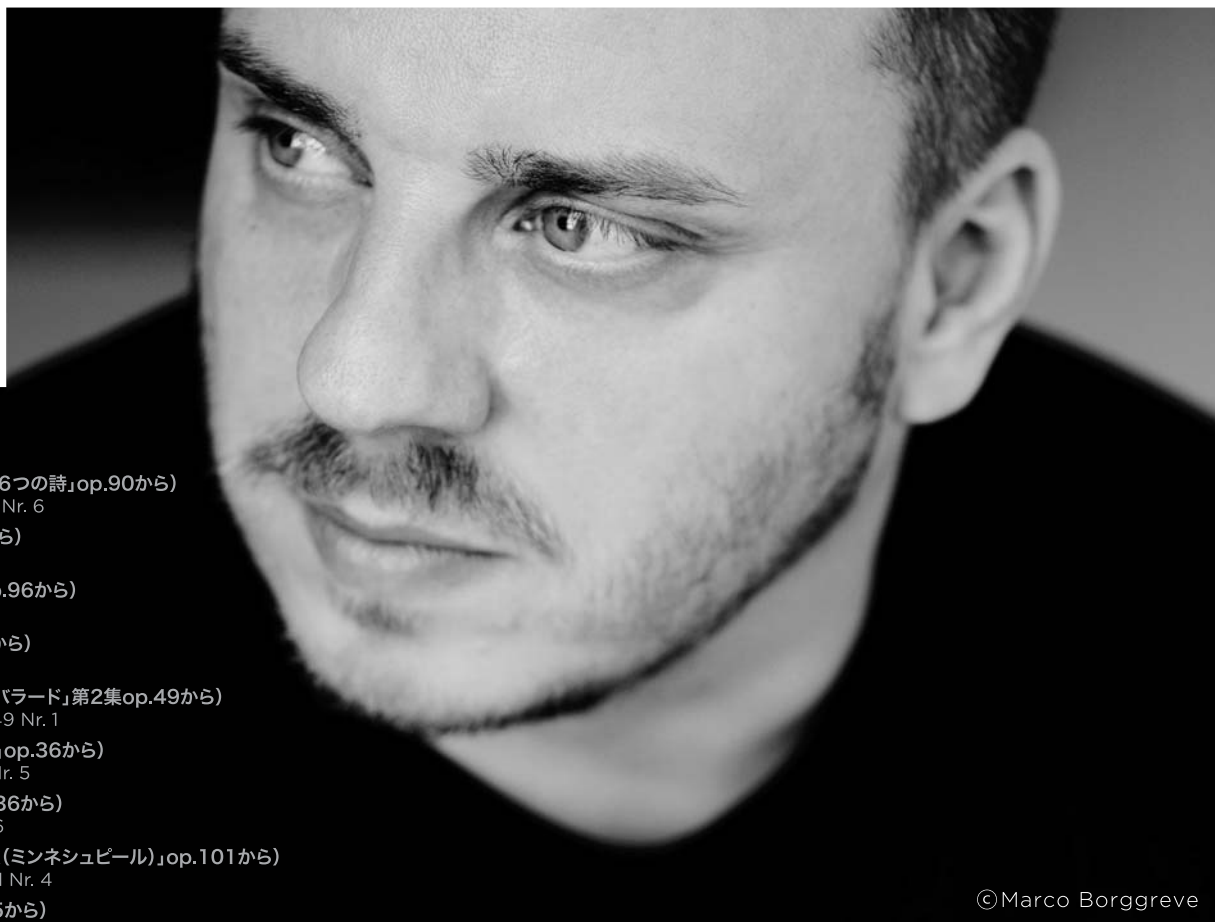


バリトン・リサイタル

マテياس・ゲルネ

MATTHIAS GOERNE BARITONE RECITAL



©Marco Borggreve

シューマン
Schumann

ものうい夕暮れ (「レーナウの6つの詩」op.90から)
Der schwere Abend, op. 90 Nr. 6

兵士 (「5つのリート」op.40から)
Der Soldat op. 40 Nr. 3

夜の歌 (「リートと歌」第4集op.96から)
Nachtlied op. 96 Nr. 1

世捨て人 (「3つの歌」op.83から)
Der Einsiedler op. 83 Nr. 3

2人のてき弾兵 (「ロマンスとバラード」第2集op.49から)
Die beiden Grenadiere op. 49 Nr. 1

詩人の目覚め (「6つのリート」op.36から)
Dichters Genesung op. 36 Nr. 5

愛の使い (「6つのリート」op.36から)
Liebesbotschaft op. 36 Nr. 6

ぼくの美しい星 (「愛の相聞歌(ミネシュピール)」op.101から)
Mein schöner Stern! , op. 101 Nr. 4

終わりに (「ミルテの花」op.25から)
Zum Schluss, Op. 25 Nr. 26

* * *

マラー
Mahler

私は快い香りを吸いこんだ (「リュッケルトによる5つの詩」から)
Ich atmet' einen linden Duft! (F. Rückert)

美しいトランペットが鳴り響く所 (「子供の不思議な角笛」から)
Wo die schönen Trompten blasen (Des Knaben Wunderhorn)

この世の生活 (「子供の不思議な角笛」から)
Das irdische Leben (Des Knaben Wunderhorn)

いま太陽は輝き昇る (「亡き児をしのぶ歌」から)
Nun seh' ich wohl, warum so dunkle Flammen (Kindertotenlieder)

おまえのお母さんが入ってくる時 (「亡き児をしのぶ歌」から)
Wenn dein Mütterlein (Kindertotenlieder)

原光 (「子供の不思議な角笛」から)
Urlicht (Des Knaben Wunderhorn)

私はこの世に忘れられ (「リュッケルトによる5つの詩」から)
Ich bin der Welt abhanden gekommen (F. Rückert)

死んだ鼓手 (「子供の不思議な角笛」から)
Revelge (Des Knaben Wunderhorn)

少年鼓手 (「子供の不思議な角笛」から)
Der Tamboursg'ssell (Des Knaben Wunderhorn)

* 曲目は変更の可能性もございます。

2011年10/16(日) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

Sunday, October 16, 2011 at 7 p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

料金 : S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥4,000

ピアノ: マルクス・ヒンターホイザー
Markus Hinterhäuser, Piano



ドイツを代表するバリトン歌手、マティアス・ゲルネの魅力は、まず何と言っても、何よりもあの深々とした声の響きにあるだろう。私はゲルネの声を聴くといつも、漆黒のマントを想像する。孤高の隠者が身に纏うそのマントは、雄々しい鷲の翼のように広がり、私たちを別世界へと力強く連れ去ってゆく。

ワイマールを故郷とし、ゲーテを愛読してきたというゲルネは、師匠がフィッシャー=ディースカウとシュヴァルツコップということもあって、いかにもドイツの正統派のイメージがあるが、その実は、ひとくせもふたくせもある鋭い知的な解釈者である。

以前ピアニストのアルフレッド・ブレンデルがゲルネを称賛していたとき、そのポイントは、「驚異的な息の長さ」と「柔らかいレガート」、そして「反抗的な目の輝き」についてであった。

特に3つめはゲルネの精神性をよく表している。たとえばゲルネは

《魔笛》に出演したとき、パパゲーノ役について「いつも失敗ばかりしているようでいて、実は抜け目なく生き抜いていく術を知っている、油断ならない男かもしれませんよ」と言っていた。シューマン『女の愛と生涯』を歌ったときは、理想の従順な女を男が頭の中で作り上げた虚像であることを指摘しつつ、男が歌うことでシューマンの愛の絶対的な純粋性と狂気の本質に迫ることができるとみていた。

そういう、常識を覆すような鋭い視点がゲルネの解釈には常にある。

今回ゲルネはいよいよマーラーの歌曲を日本で披露してくれることになった。マーラーの没後100年にふさわしい、新たな発見をもたらす刺激的な一夜となるに違いない。一緒に演奏されるシューマンの歌曲とどう響き合うのかも楽しみである。

林田 直樹(音楽ジャーナリスト)

リート

マティアス・ゲルネ・シューベルト・エディション 好評発売中



マティアス・ゲルネ・シューベルト・エディション第5集



シューベルト：夜と夢 D827、盲目の少年 D833、あこがれ D637、墓堀人の歌 D869、私はすべての安らぎを奪われて D876、老年の歌 D778、墓掘り人の郷愁 D842、月に寄す D193、5月の夜 D194、シルヴィアに D891、セレナード D889、羊飼と騎馬の人 D517、夏の夜 D289、収穫の歌 D434、秋の歌 D502、愛らしい星 D861、恋人に D303

マティアス・ゲルネ(バリトン)
アレクサンダー・シュマルツ(ピアノ)
録音：2008年9月

【HMC 902063】 **最新盤**

■マティアス・ゲルネ・シューベルト・エディション第1集

【HMC 901988】
シューベルト：
漁夫の愛の幸せ D 933、冬の夕べ D 938、メムノン D 541、
双子座に寄せる舟人の歌 D 360、舟人 D 536、あこがれ D 636、
希望 D 295 他(全 15 曲)
マティアス・ゲルネ(バリトン)
エリザベト・レオンスカヤ(ピアノ)
録音：2007年2-3月

■マティアス・ゲルネ・シューベルト・エディション第2集

【HMC 902004 (2CD)】
シューベルト：
春の小川のほとりで D 361、音楽に寄せて D 547、郷愁 D 456、
ただ憧れを知るひとだけが(ミニョンの歌) D 877-4 他(全 41 曲)
マティアス・ゲルネ(バリトン)
ヘルムート・ドイッチュ、エリック・シュナイダー(ピアノ)
録音：2007年10月、2008年1月

■マティアス・ゲルネ・シューベルト・エディション第4集

【HMC 902035 (1CD+1 ボーナス DVD(メイキング映像))】
シューベルト：
海の静けさ D 216、トゥーレの王 D 367、
さすらい人の夜の歌 D 224、春の想い D 686 他(全 19 曲)
マティアス・ゲルネ(バリトン)
インゴ・メッツマッハー(ピアノ)
録音：2008年10月、11月、2009年2月

■シューベルト：歌曲集「美しい水車小屋の娘」

【HMC 901995】
マティアス・ゲルネ(バリトン)
クリストフ・エッセンバッハ(ピアノ)
録音：2008年9月

輸入・販売元・お問い合わせ/株式会社キングインターナショナル TEL: 03-3945-2333

twitter @kajimoto_News